

3
急

10.1

受	月	日	組	班	長	區分
發	11	10	第	第		第
送	11	10	時	分		

電報案用紙

發給
乙集
昭和 20 年 10 月 31 日起案
月 日發送
淨送者書

官令司
長謀參
長部
者帶連
任主

宛名
方面軍參謀長
發給者
軍參謀長

件名
甲方參一電第 二〇四五號返

一、接收セラレタル銃砲、銃剣、彈藥、車輛教左、如

銃剣	四二、五七〇
小銃	四〇、二三〇
拳銃	一、四七二
擲彈筒	一、〇一四
輕機	一、一三五
重機	二、三四
機關砲	九
自動砲	一、七一
平射砲	一、三
曲射砲	二
九二式步兵砲	九
山砲	八三
三七糎對砲	三
一四式野砲	一
一〇糎榴彈砲	二
九六式一五糎榴彈砲	一
三八式一五糎榴彈砲	四
一四身式一〇糎加農砲	一
一二年式高射砲	四

(日本國軍規程 D-4)

0715

陸軍

10.2

起案用紙

陸軍

發給 昭 和 年 月 日 起案 月 日 發送 發送者

司 官 參謀長 部長 連帶者 主任

發翰者

宛名	件名
七五 迫雲砲	五
八二 迫雲砲	二〇一
一二 迫雲砲	一一一
一五 迫雲砲	三
三八式銃 實包	五三二七、一四五
九九式銃 實包	二〇三、九八〇
拳銃 實包	五〇九、一〇
三年式機用銃 實包	五四二、八〇〇
九九式重機 實包	六〇九、七六〇
智式七九 實包	一五九五、二〇〇
手榴彈	一〇七、七〇〇
八九式重擲榴彈	七三八、五四
二年式平射砲榴彈	一一、一四五
二年式曲射砲榴彈	九、三〇〇
九九式曲射砲榴彈	一、九五〇
九九式步兵砲榴彈	一〇、二五二
三八式野砲榴彈	一六、三一〇
四一式山砲榴彈	二五、五五八
九四式山砲榴彈	三〇、八〇三
三一式山砲榴彈	一七、二五五
二年式高射砲榴彈	一〇〇、三
九九式一五榴彈	三五九

(日本標準規格 B-4)

0716

10.3

起案用紙

陸軍

件名	宛名	官令司	發翰	昭 和 年 月 日 起 案	日 發 送	淨 送 者 書
		長謀參				
		長部				
		者帶連				
		任主				
發翰者						
三 八 式 一 五 榴 彈	三 四 九 発					
四 年 式 一 五 榴 彈	二 八 六 四					
一 四 年 式 一 口 加 榴 彈	三 五 一 口					
一 四 年 式 野 砲 榴 彈	四 口 五 五					
一 口 年 式 擲 彈 筒 彈	六 九 三 七					
方 形 黃 色 藥	二 四 九 六 個					
円 形 黃 色 藥	四 九 八 七 個					
爆 発 飛 走	一 六 七 一 個					

0717

8

7

硝安燻葉	五三三九	群
タイナマイト	六一〇〇〇	
カイリソット	二〇、五二五	
飛煙筒	一五、三三六	発
八二道榴澤	二一、九六三	
九三式車載一三耗 梯筒砲賣色	一六、八七〇	
ヲ式三七耗砲澤	一、七四〇	
九四式三七耗砲澤	二、三三〇	
粉状黄色薬	三、三〇〇	群
粉状茶褐薬	二、四四二	
北支瓦式擲澤	八、七一五	発
筒榴澤		

(日本標準規格 B-4)

0718

4.

起案用紙

陸軍

出發號 昭和 年 月 日 起案 月 日 發送 發送者書

官令司 長謀參 長部 者帶連 任主

宛名 發翰者

件名

輜重車 二、三、二、八
 乘用車 七、二
 小型乘用車 三、九
 側車 四、三
 自動貨車 七、六、一
 指揮車 七
 輕修理車 一、〇
 武器修理車 一、〇
 牽引車 三
 輕裝甲車 一、六
 重裝甲車 四

以上、外航空部隊關係ニ於テ接收セラレ

スルモノ左ノ如シ

銃剣 三、七、六、小銃 三、七、四
 重機 四、輕機 五
 擲彈筒 七、牽銃 一、六
 機南砲 三、輜重車 二
 自動貨車 一、三、乘用車 三
 側車 三、牽引車 二

(日本標準規格 B-4)

0719

105

件名 宛名 官令司 長謀參 長部 者帶連 發翰者 任主	二五〇 炸爆彈 一〇〇	起 案 用 紙	昭和 年 月 日 起 案 月 日 發 送 發 送 者 書	發 翰 者	陸 軍
	五〇 炸爆彈 八二八				
	三〇 炸爆彈 五二八				
	一〇 炸爆彈 一三三				
	一五 炸爆彈 一三〇				

0720

No 6

起案用紙

陸軍

件名	宛名	官令司	發翰番號	昭 和 年 月 日 起 案	發 送 者	淨 送 者
		長謀參	昭 和 年 月 日 起 案			
		長部	昭 和 年 月 日 起 案	發 送 者	淨 送 者	
		者帶連	昭 和 年 月 日 起 案			
		發翰者	昭 和 年 月 日 起 案	發 送 者	淨 送 者	
		任主	昭 和 年 月 日 起 案	發 送 者	淨 送 者	

二為軍 (持孤由駐地)

綏靖軍八省防第卅軍ニ改編軍部及第入取

(沁縣)第九師及第十二師(豫北)

保安隊 (省防第卅軍及第入取) 改編第卅軍部

0722

又第五師(木魚)為四師(新縣)第七師(壽陽)

第五軍(東國)

編成(裝備) 不明
本軍三師三團其營三連一連不中

輕機六槍彈筒三有本

但第五軍(現在)編成中ニシテ現在員六七ノ多ク

活動状況 各地ニ流シ
其警備任務ニ取リテ

三第三項ニ關シテハ後報ス

告知狀況一ノ一沿線又ハ心ニ於テ

(昭和十八年十二月 太原印刷廠納)

(日本標準規格B-4)

0723

11/12
1200
11/12
竹地分

6

起案用紙

陸軍

件名 華北電々太原通信局接收情況 一接收ハ中思剛正式接收員未到著、爲現地山西軍ニ於テ 実力接收ヲ完ルニシテ、接收書類ハ一括正式接收員ニ交手 スベク准テ備シアリ、接收後、社名ハ山西軍用電訊局 ト改稱シアリ、	宛名	官令司	發翰番號	發翰者 任主 淨送者
	總務課長	參謀長	383	
	參謀長	部長	20年	
		連帶者	10月	
			10日	
			起案	

0724

ニ社団法人従業員約二〇名中一六名ハ現地残留ヲ希	望シ畧々残留方決定シアリ残余ハ引上げ準備中ナリ	引上げ希望者ハ付スニ俸給支拂ハ一月以降俸由セラレテ	生計ニ支障ナシ	強制徴用ハ現在迄ノ付實施セラズ	三軍ハ中東特異ナル情況ヲ鑑ミ軍ノ愛々交通團	三者ノ通信線ヲ同一線路ニ統合整理シ三者ヨリ	ナル通信工作隊ヲシテ保守セシメアリモ終戦前後	ニ於ケル通信官ノ累加及	時素ノ軍線保守資材
-------------------------	-------------------------	---------------------------	---------	-----------------	-----------------------	-----------------------	------------------------	-------------	-----------

(昭和十八年十二月 太原印刷版約)

(日本標準規格D-4)

0725

陸軍

拾得ノ困難性等ニ鑑ミ電線ヲ逐次撤收或ハ收縮

ハ
ニシテ

ニテ結果現在電ノ使用線皆無ナリ
從ツテ公衆

通信ハ無線通信ノミヲ實施シアリ
從ツテ

管内ニ於テ公衆長距離有線通信ニ関シテハ何業カ

具體的問題整理中ニ在リ

事項ニ着手セシムルヲ承知セム

右問題對シテハ技術的方面關係モ亦リ由奇急ニ着手

手困難ナルモ如ク

0726

現線路、軍用線及鐵道用線ノミナリ

西軍ノ及電カトノ貸借關係ハ精算完了シアリ

通電先方會社

(昭和十三・十一・東京・博通社納)

(日本標準規格 B-4)

0727

3 野軍急

電報案 (生、暗文)

陸軍

番號 陸軍省電報 594 昭和 年 月 日 起案 月 日 午前 時 分 發信 取扱 者

官令司 參謀長 部 連帶者 主任

宛名 方軍 發信者 參謀長

甲子參一電第三五五号 二月廿夜

軍、撤收、関、小中、軍、明、確、在、慶、間、長、官、有

何總司令、京、高、村、大、將、紀、事、中、レ

山西、日、本、軍、ハ、最、後、ニ、撤、退、セ、レ、ト、共、ニ、將、來、亦、留、長、官

ヨリ、報、告、ノ、上、決、定、ス、レ、云、ハ、總、下、各、部、團、長、ヲ、電、報、シ、

右、電、報、ヲ、及、

目、下、留、長、官、不、在、海、軍、ハ、撤、收、ニ、関、シ、折、衝、ノ、困、難、ナ、ク、状、況、ニ

ア、リ、尚、懸、念、ニ、交、障、有、軍、隊、ノ、軍、給、物、期、日、ニ、ヨ、リ、其、他、之、目、下、ノ、状、

甚、ク、僅、少、ナ、リ

分區	長	班	組	6日	10時

0728

支那 支那 支那 支那 支那

三兵苗民ノ撤退ニ関シハ好意ヲ示シ全面的に斡旋スルベシ

山西軍側ハ

四管内ニ在リテ鐵道線ヲ保持シ状況ハ良好ナリ

輪転材料ノ不足ニヨリ輸送力ハ若揮一十

人ナラズ 十月十日以降太原ヲ以テ在リ居留民ハ

約四〇〇人(十月日發平定ノ令ヲ含ム)ナリ

通電先 總平 方軍

支那 支那 支那 支那 支那

0729

8550

11月16日 16時 班長 區分

12

緊急

起案用紙

陸軍

發翰者	軍參謀長
宛名	總司令部
官令司	參謀長
部	部長
連帶者	
主任	
發送者	
淨送者	
年	日
月	日
日	日

一、軍、山西省撤退ニ関スル第二戦区ノ意向ニ付テ
 第五九四号ノ如シ

二、軍、各兵舎長以下ノ努力ニ拘ラス終戦以來ノ
 離隊逃亡ハ三〇名
 行方不明一三五
 軍紀ハ

遺憾ナク良況ニ在リト謂フヲ得ス
 今後駐留ノ長期化ニ伴ヒ志氣ノ沈滞ハ一面ニ於テ
 如何トモ致シ難ク又他部隊致送輸送ノ報道
 傳ハリ特ニ第千我軍ノ我カ山西省撤退ニ関スル
 態ヲ伝フハ、急激ニ志氣ヲ沮喪シ軍隊
 逐次自解作用ヲ失スコトナキヲ保シ難シ

三、軍管内ニ於テ土匪ハ目下積極的ニ我ニ対シ攻撃

(昭和十八年十二月太原印刷廠)

(日本標準規格B-4)

0730

陸軍

(土匪ハ我カ駐留地至近ニ在リ)

ニ事トシテモ 宣伝誘惑ハ依然執拗ニシテ今後

偷延關係ノ進展ニ伴ヒ軍務新致ヲ作リ益々活躍

化スヘク亦~~其~~武力ヲ以テ我カ攻撃ヲ不~~不~~止

ヲ~~多~~期~~ハ~~シ~~テ~~モ

有~~レ~~テ~~モ~~此ノ如キ事態ニ至~~ル~~ハ

前述ノ如キ軍ノ状況ニ鑑ミ憂慮ニ堪エサルモアリ

四. 軍ハ目下居留民ノ京博地区輸送ヲ極力促進

(輸送)

セシ~~テ~~モ 現状ヲ以テモハ年内ニ於~~テ~~モ~~ハ~~院~~ヲ~~シ~~テ~~

0731

期待し得ず從テ

軍属送其、家族、輸送促進ヲモ考慮シタルモ今迄

カニ之ヲ実施シ得サル状況ニ在リ

五軍ニ対シ上司ノ萬般ノ配慮ニ関シ感謝ニ堪エサ

論述

ル所ナリト雖モ中東軍、北山、西軍、駐ニヨル多量ナル

治安恢復ヲ促進方々國ル以外軍トシテ折衝

ノ余地ナキ状況ニ付此上共配慮有希

尚為ニ得ル限リ幕僚ヲ連絡ノ為派遣相成致

通電先 方軍、總軍

(昭和十三・九・東京・傳通社稿)

(日本標準規格 B-4)

0732



起案用紙

陸軍

發翰者 淨送者 發送者 昭和二十年八月二十八日 起案

司令官 參謀長 部長 連帶者 主任

宛名 總、甲 參謀長 發翰者 參謀長

件名 軍關係人員ニ関シ九月一日調第二戰區宛提出

セ人員(宮崎參謀來京時携行ノモノ)中ニハ

ノ人員及軍屬家族等ヲ含ミテラス

然レ甲方副覽第ニ九一號ニ依リ軍人軍屬ノ

家族ニテ支那ニ居住シタル者ヲ軍屬トシテ取扱如ク

定メラレ但シ軍ニ於テハ人員ヲモ計上ノ必要ヲ生シ

九月二日現在ニテ調査セル結果 第一軍

軍人四五二八 軍屬 一五〇八 軍關係者(家族ヲ含ム)

二八一七 計 四九五二三名 軍人 一〇〇九九

軍屬五六〇 軍關係者 九八五名 計 一六四四名

總計 六二六七名 (部隊移動等ニヨリ若干

調査下十台ノ莫アリ)ナリ爾後一〇月一日現在

(昭和十八年十二月太原印刷廠)

(日本標準規格B-4)

0733

陸軍

以上ヲ調査セル結果ハ第一軍(師)及軍傷同家族

ヲ含ム人員ハ入院患者ヲ合シ總計五六〇四名

二月二〇日調ハ五二一六二名ニテ九月二〇日調トノ

差數ハ現地除隊及現地解傭者等ノ発生

又患者後送等ニ係ルモノナリ

先般第二戰區司令長官、何總司令ト會談ノ

節第一軍兵員數ニ就テ、何ハ五九〇〇ト稱

シ第二戰區兵員數ハ六二〇〇ト稱見相違ハ

右事情ニ基クモノナリ付此ノ英中國總司令部ニ

説明セシメ度

通覽先、總、甲、

終

(日本標準規格B-4)

(昭和十八年十二月 太原印刷廠納)

0734